

吊り編みニット

*Awesome Products
in Wakayama 03*

*a story of
working site*



「機械の間を歩き、音を聞くだけで調子
わかる」と和田安史社長。



「身につけて心が豊かになる製品を」。それが和田メリヤスのものづくりの原点だ。日本どころか世界中を探しても現役で稼働している「吊り編み機」のほぼ全てがここに集まっていると言っても過言ではないらしい。大量生産が可能な「シンカー」と呼ばれるニット織り機(ニット編み機)とは異なり、一段ずつ丁寧に編み上げていく「吊り編み機」。機械に固定されたドイツ製の「ヒゲ針」と、高速で回転する本体がまるで生き物のように生地を編み上げてゆく。コマ数ミリズれるだけで部品同士が噛み合わないような繊細な機械だが、それらを調整するのも職人の「感覚」だという。機械の調子是一台一台異なり、目だけでなく音でも見極めなければならない。

「吊り編み機」で編み上げられた生地の風合いや伸縮性は、「シンカー」とは別物。洗濯を何度繰り返しても生地はへこたれないという。質より量が求められた時代に、新しい機械の導入を勧められたが、あえて拒み現代に至る。現在Switzul(スイツル)というオリジナルブランドを立ち上げ販売。また海外からの視察も多数あり、海外進出も視野に入れている。

和田メリヤス株式会社

場所／和歌山市馬場165-1
電話／073-479-0064